

岡崎市立中央図書館事件

事件のあらまし

2010年5月25日、岡崎市立図書館の蔵書検索システムに満足せず、自身で作成したクローラを用いて図書情報を取得する。



蔵書検索システムの閲覧が困難になる。



その男性が偽計業務妨害容疑で逮捕される。Librahack事件とも呼ばれる。



20日間の勾留と取り調べののち、猶予処分となる。図書館のシステムの脆弱性や操作方法などについて、のちに論議を呼ぶ事件となった。

この事件の問題点

- ・図書館の蔵書検索システムは旧式のもので、もともと不具合があった。(低頻度のリクエストでもアクセス障害が発生する)
- ・男性の作成したクローラは悪質なもの(攻撃の意図があるもの)ではなく、図書館の閲覧システムが特殊なものだったために問題が発生した。
- ・警察はプログラムがどのようなものかあまり理解せず捜査を進めた。

出典

- ・作者不詳. 岡崎市立中央図書館事件.

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%B2%A1%E5%B4%8E%E5%B8%82%E7%AB%8B%E4%B8%AD%E5%A4%AE%E5%9B%B3%E6%9B%B8%E9%A4%A8%E4%BA%8B%E4%BB%B6>, (参照 2020-07-11)

- ・中川圭右.Librahack. <http://librahack.jp/>(参照 2020-07-11)

この事件から得られた教訓

- ・自分の持っている技術を使うときには社会にどのような影響を及ぼすのか事前に把握しなければならない。(技術者倫理)
- ・警察の技術に関する知識不足→社会全体の知識不足